

第4回（仮称）学習文化交流施設基本計画検討委員会会議概要

【日時】平成21年12月21日（月） 14時00分～16時45分

【出席者】委員：11名（欠席：2名）

事務局：共働推進課長、市民共働班長、生涯学習課政策監、福祉課児童福祉班長、
政策企画課、まちづくり推進室3名

コンサルタント：2名

1 開会

委員長挨拶：一昨日、たまたまテレビを付けたら「鹿角まちなかスキー」というのをやっていて、非常に興味深く拝見した。鹿角の人の人情や底力みたいなものをそこで少しわかったような気がして少し嬉しくなった。今日もぜひ活発なご意見をお伺いしたい。

2 報告

（1）第3回検討委員会の検討内容について

事務局にて前回の検討内容について確認（参考資料1）

（2）参考事例について

参考資料2を説明

3 案件

（1）管理運営の基本方針について

事務局にて資料1の説明

意見・質疑

委員：市民センターは部屋の管理に限らず、市民運動会などセンターを使わない事業も担当している。

また、50回など歴史がある事業が多く、引き継いでやっていくことも重要。

事務局：基本的に市民センター部分の管理運営は現在の協議会にお願いすることになるかと思う。

委員：図書館サービス計画・利活用計画は重要で、これがなければ計画は進まない。建物、敷地が議論されているが、鹿角市がどういう目的で建物をつくり、どういうイメージで使っていくかが重要。そういうサービスの計画、あるいは活用するための計画を一番先につくらなければならない。それが出来れば、施設管理、運営方法、組織体制、その他貸し館計画、オペレーションなどは目的と規模が決まれば自動的に算出される。一番最後に目的がブレると一からやり直してハードウェアと合わなくなる。根本論を先にやる方向で検討されたいかがか。

事務局：資料はこれから開館までにやる作業を全部列挙したもの。どの段階で、どういう順番でやっていくか原案はあり、そのスケジュールに従って順番にやっていく。表現出来るものは訂正して記載したい。

委員：施設の目的はどこで検討するのか？4つの施設について、何を市民に提供する、市民と一緒に創っていくかということが文章書きされれば今後の議論がやりやすい。

委員長：全体の目標をA4版1枚程度で図化した資料を作成して欲しい。検討事項についても全体のタ

イムスケジュールの中でどういう手順でどのようにやっていくか提示して欲しい。

事務局：来年度から取り組む管理運営の組織や時系列的なものを整理し、次回の資料で出させて頂く。

委員長：前回議論になった全体のコンセプト、あるいは施設全体の物語性をどう創っていくのか、鹿角らしさをどう出していくかはまだ結論が出ていない。

事務局：4つの機能を実現するためにどういう施設が必要かということについて叩き台として提案させて頂いている。皆さんのご意見を伺った最終的なまとめる段階でいろいろ形が見えて来るかと思う。

委員：花輪以外の人には花輪だけの施設ではないか？との意識がある。せっかく新しい施設をつくるのだから、地域性ではなくどこか中心にまとまる場所があっても良い気がする。

事務局：花輪市民センターを併設することで地区的なイメージが強くなる気もするが、文化ホールは市で一つであり全市的な市民が集まれる施設という運用をしていけば解決するのではないか。

委員：中央公民館が無くなり、市民センターに移行した時に連絡協議会が設けられたが、うまく機能していないという話があった。これを機会に文化なり生涯学習の中心になるような強力なやつをつくってそこから地域の方に行くことを検討した方が良い。それぞれ競いあってがんばっているが、それはそれで良いが、鹿角市全体ではどうなのか？という気がする。

委員：花輪の方はいまのような4地区バラバラになってその地区のことだけやれば良い、という考えに強く反発する方も大勢いる。

事務局：生涯学習の拠点的な機能は決定ではないが、検討しなければならないところだと思っている。中央市民センター的な機能は今まではあまり想定しなかったが、他の地域づくり協議会の皆さんのご意見がどうなのか気に掛かる。

委員：花輪の図書館の非常勤のスタッフの勤務年数は何年になっているのか？

事務局：いまはパートナー制度で1年契約。

委員：市役所の募集の関係で1年となっているのは分かるが、場所によって図書館は3年の条件で募集するなど配慮が無いとようやく仕事を覚えたころに変わる。要望として聞いて頂きたい。

委員：図書館でも1年目でも出来ることは多い。本を貸して返して頂くのは、はっきり言えばコンビニと同じ。そういうサービスが目的であれば、そんなに優秀な人材を置く必要も無く1年交代で良い。ただ、子育て連携や高齢者サービスなど福祉的なサービスを加味してやるとなると最大の問題は人。指定管理者は3年交代が多いが、人が一旦全部切られるので非常に問題がある。建物と違いこの地区で人を育てるのは大変。

委員：現状で文化ホールなどのボランティアで活動されている団体は鹿角市にはあるのか？官で運営するのではなく、民の方が建築段階から入って組織を作り、実際に建てられるとその人達の中核になって運営しているのが多い。そのやり方をすると上手く行っている。建てる前から友の会のような組織を作っていくと気運も盛り上がりやすい。参画している意識も高いと運営もがんばる。なので、ホールや図書館を作る前に出来ればそういう市民が支える組織をソフト的な事業、計画の中に盛り込んでどうか？こういうのはお金を掛けなくても十分に出来る部分。やりたい人は多い。オープンしてから集まって下さい、と言っても遅い。

委員長：同じような活動をしているような組織や団体は把握しているか？

事務局：こういう活動している団体がある、というのはおさえている。施設のオープンの際には市民に支えてもらえるような考えは持っている。そういった体制、組織化に向けてこれから管理運営計画、サービス計画で意識しながら検討を進めていきたい。まだ施設が出来るまで年数があるので、順番に検討を進めながら、市民によって支えられるような施設にしていきたい。他のホールの事例を見ても運営組織があるところが稼働率が高く利用されているので、そういったものも意識はしていきたい。

事務局：先ほどの市民センターの関係で、いまの地域づくり協議会は4つの公民館がありそれを地域の方々に組織する協議会という形で出来た。生涯学習、社会教育それにさらに地域づくりをしていくということで地に足が着いた形で地元がやっていく、ということでそれぞれの旧町村単位で発足した経緯がある。現在、指定管理者で5年目になっているが、情報交換は年何回か行っている。先日、会長役員の会議があり4つを全体的に動ける組織はどうか？という話もあったが、それぞれ主体性を持っており、賛同する意見が無かった地区もある。現在は全体的な生涯学習については教育委員会、行政でやって行くことで進めている。花輪については中心部なので、全市の皆さんを対象にした事業ということでいるんな団体があるが、全市的な活動をしたという意見も多々あるので、話し合う要素はあると思う。実状的には協議会はまだ全体的にまとまって一本化して、というところまでは。最初地域から根を下ろして頑張りましょう、という考え方で発足しているので、全市的な形を取るのにはニュアンスが違うところがある気がする。全市的なものについてはそれを受け止めるところを作っていければ良いかと思っている。

委員長：4つの地域で地域に根ざした活動をされてるということだと思うが、全体的な文化行政の中で上手く今回の計画に含めて具体化出来ればよろしいかと。

事務局：協議会そのものがあまり古くはない組織だが、旧町村単位の4地区に公民館がありそのまま市民センターに移行して管理を各地の地域づくり協議会が管理し、事業そのものの内容が地区ごとの市民の方を対象とした事業で現在進んでいる。仮に全市的な組織になったとしても、各館で行う事業についてはそれぞれの地区の方の意見が反映される事業でなければ地区の人を呼びかける事業にならない。決してまとまった全市的な協議会を否定するのではなく、まだ現段階でどこの地区もそういう雰囲気的に醸成されていないだろうという段階。

委員長：の開館の時間や料金についてはあまり議論されていないが。

委員：午前中は高齢者の方など使う人が一定。仕事を持っている人は5時まででは使えないので、7時8時まで開館が必要。そうすると人手がかかる。人手がかかるのでボランティアという話になるかもしれないが、恒常的には難しい。7時まで必ず居て下さい、と言ってもボランティアでは来れないこともある。仕事であれば出来る。今では自動貸し出しや自動返却装置など機械的な方法がいろいろある。6時以降は自動施設で返却、貸し出しは自動でやっているところもある。町によってはシャッターを閉めてセキュリティカードで町民の方が一定のエリアに入って24時間開館しているところもある。もし夜間的な開館をするのであれば全面的な機能を提供しなくても良いと思う。完全にボランティアは難しい。職員も多少は必要になるので、ボランティアと例えばハードなど組み合わせを考えなければ。ボランティアの意欲は数年で止まる可能性も高いので底あても考えておいた方が良いでしょう。

委員長：開館の時間等についても実態と市民のニーズというのはなかなか掴みにくいところがあると思うが、夜型の人最近多くなって来ているので延長している図書館も結構ある。少し様子を見る必要があるかもしれない。

委員：花輪市民センターは6時以降の利用者が多く、満員になることもある。市民センターの簡単な窓口業務と図書館の受付業務を兼ねたやり方も不可能では無いと思う。連携も考慮しては。

委員：受付業務などは図書館で出来れば良いのでは？そうすれば全部カバー出来る。どこかに受付があれば良いので、別にどちらでも良いが。図書館のカウンターを開いていなければならないとすればそこで鍵の受け渡しなども出来る。そうするとかなり効率的。多分 にかかると思うが。

委員：秋田市の旧県立図書館のジョイナスは11時までやっている。そんなに遅くまで使うのか？と思ったが、結構若い人達が練習に来て抽選しなければ入れない。夜なかなか集まれる場所が無いというのがあるのかもしれない。効率を考えて解放出来る仕組みを考えれば市民活動が進むのではないか。

委員長：管理運営面での連携ということも考える必要があるかと思う。いろいろ意見出たので、少し整理していただくということで。

(2) 施設の構成内容について

事務局にて資料2の説明

意見・質疑

委員：子育て支援施設の遊戯室で予定している行事は具体的にはどのようなものか？

委員：いまは月に1回子供の遊ばせ方が分かる「すくすく広場」を未就園児対象に行っている。クリスマス会や、雪遊び、夏は手遊びとか。妊婦対象の講座、絵本の選び方や読み聞かせなども行っている。

委員：それであれば、実際の図書館との連携にかなり利用が近い。県立図書館でも児童館が近くにあるので、そのようなことをやっている。図書館はそれを支える機能を持っており、これが離れていて分断されると使いづらいのではないかと。連携をこの遊戯室の位置づけの中で考えていただけたら、図書館のサービスともリンク出来、お互いに良いところを出し合えると思う。

委員：市民センターの多目的研修室に防音とあるが、わりと防音機能を必要とされる方は多い。楽器を使ったり、話すにしてもパーティションは音が漏れるものが多い。小ホールは防音を意識した区切り方をすれば、2室同時運用、3室同時運用が可能になるが、パーティションだと結局は使えない。音が漏れるから片方使っていればもう片方は使えないということになる。音のことは考えた方がいい。多目的な利用が増えてきていて、あんまり専用にしてしまうとつらい。そういう面から、音を遮断する仕組みを考えたほうがいい。完全な防音でなくてもいいが、あればすごく使われると思う。

コンサル：可動間仕切りになるが、防音性能をどの程度にするかが課題となってくるかと思う。

委員：他の所でも少し防音的なことを考えられたら使い道はぐんと増すと思う。

委員：遊戯室に畳のスペースを設ける予定は？6カ月に満たない子どもはまだ座れないので、フローリングに寝かせておくにはいけない。ハイハイとかまだできないお子さんの利用もある。

事務局：現段階ではこれ位必要ということで面積を出しているが、当然畳のスペースは考えている。

委員：調乳室は授乳室も兼ねているということか？

事務局：調乳室はミルクを作るのと流しを考えている。

委員：母乳をあげる所は無いということか？

事務局：その場合は相談室など区切った部屋を使うことを考えている。

委員：できれば授乳室がほしい。今、男の先生もいるし、お父さんも参加している方がいるので。

委員長：これは授乳室と調乳室が一緒になったほうがいいという意見か？

委員：一緒でも別々でもいいが、スペースがほしい。

委員：常設の託児室というのはどういうことか？

事務局：いまファミリーサポートセンターに常設のサポーターがいる。開いている時間に常に1人はいて、予約なしで突然来た場合にも対応している。1人で対応できない場合にはサポーターのネットワークがあり、皆さんに連絡してすぐに託児に対応できるようにしている。

委員：これはなかなかいいと思う。こういう複合施設の中に一時預かりできる施設があれば、ホールなどの有効利用も出来る。子育て中で来れない人は結構多い。練習に来れない、演奏会に来れない、図書館にも来れないという人が多く、かなり重要になると思う。しっかりこれをやればかなり目玉になると思う。外に歩けない親子の人をサポートしてあげれば、ホール、市民センター、図書館でもここを使いこなしてカバーできるようにすればいいと思う。

事務局：現在も市民センターなどで行事がある場合はファミリーサポートセンターで臨時的託児所を準備し託児を行っている。こういう文化ホール的な施設に入ることができれば、託児が簡単に出来るようになると思う。

委員：託児所の付いた図書館は全国にあまりなく、これは良い面であり、施設の売りになる。

委員：今もお母さん達のサークルが子どもを託児して、自分達の趣味などの集まりをやっているが、今度からは遊戯室で託児をしてお母さん達はイベントに行ったり、市民センターで趣味のサークルを行えるようになることが、横のつながりで良い。子育て世代、未満児の子どもの居場所が出来るし、市民センターは今まで通り、年配の方など生涯教育を目的とした方達のサークルの活動がされると思うので、建物だけが新しくなるというだけでなく、今まで行けなかった若い人達や、小学生くらいの子供達が集えるような場所になり、交流広場や図書館が生きてきてほしいと思う。そのために図書館は遅い時間まで開館して若い世代を獲得するというのと、交流広場は用事がなくても行ける、ぷらっと行けるような有意義な場所にしてほしい。

事務局：今、皆さんからご意見をいただいたように、子育て支援施設の設置の理由は、お子さんの学習環境の充実と、親御さん達の支援になるように、それを生涯学習の施設の中に一緒に整備することでトータルで子育て環境の充実になるということでこういった提案をしているので、今皆さんから意見をいただいて私共としても良かったと思っている。

委員：子育て支援センターと市民センターが一緒になることによって、小さい世代と上の世代の方達の場所が確保されたと思うし、それに図書館が付随することによって全年齢層の人達が行くことができることになるので、図書館と交流広場の位置づけが全年齢層が集える場所という面で重要になってくると思う。

委員：岩城の図書館がそう。子育て支援と図書館とつながっていて、子ども達の遊戯室のかげに図書館がある。配置や動線などを考えなければならないが、なるべく隣接されたほうがいいと思う。とても良い売りになると思う。実際に岩城はとてもうまくいっている。子育てと図書館は他のものよりずっと良い組み合わせ。

委員長：子育て支援施設と図書館の児童コーナーの連携、それから市民センターとの連携も含めて、基

本設計で詰められていく話かと思うが、全体的には交流広場の中でいろいろな交流が生まれてくるかと思う。その辺は事前協議やこういった要望をふまえて設計されていくことになるかと思う。

委員：前々回に複合施設全体のコンセプトが必要でないかというお話をさせていただいたが、何のためにというところがこの施設に関しては弱いと感じている。図書館や文化ホールは先進的な良いものを見習いながらやっていけば良いものは出来ると思うが、問題なのはどう複合施設を地域に溶け込ませるかだと思う。素人なので、抽象的にしか伝えられないが、この間は街の中にある“杜”的な杜というようなものを造り上げるのは問題があるとの意見も出ていたが、図書館、文化ホールプラスのところでは市民が集える場所にするというものが無ければ、なんとなく非常に立派なものではあるが、組合病院が抜けて鹿角の中心に穴が開いてしまうのをどうかしようという発想でこういう施設を造ることに結び付いていかないと感じている。コンサルの会社の方には是非、具体的にこういうのが良いのではないかと提案いただければとありがたいと思っていた。交流広場の基本方針とか規模、機能などこれだけでは失礼ながらだいたい想像がつくし、どこにでもあるパターンとしか思えない。

委員長：前回はこの話はいろいろあり、私は基本コンセプトは屋外とか交流広場を含めて、施設全体をもう少し、鹿角らしさとか、まちらしさを含めてうまく表現していけるような提案というのものもあるかと思うが、これをこの会の中でいろんな意見を出していただいて最終的にまとめていただくのはコンサルがいいのか、今やっているのは基本計画で、次のステップの基本設計のレベルでやるのかは後で事務局のほうと相談したいが、このなかでコンセプトまで出せるのかということは難しいという気はしている。皆さん、いろんな所を見てこられて、こんなコンセプトでやりますということが書かれているが、だいたいはコンサルとか基本設計をやる所がこういう所の議論を経ながら意見を集約したかたち。明確なコンセプトができるかわからないが、何らかのかたちでまとめる必要があるとは考えている。

委員：ずっと存続して良い施設になっていくために一番大事なのは、中で働く人達、集う人達がお互いに満足できる施設を創っていくことだと思うので、働く人達のことも考えていただきたいと思う。さくらホールを視察した時に働く人達がプライドと喜びを持って働かれている姿を見て、素晴らしい施設だと実感してきた。是非そういうことも加味していただければと思う。

委員長：これまでは利用者側に立っての議論だったかと思うが、当然、運営する側の働きやすさや、ミッションをどう果たしていくのかというのは基本計画の中に必要かと思う。

委員：交流広場は、賑い創出ということであればただの入口になってしまい、考えなければ人は来ない。そうなればただのロビー。ロビーで良ければロビーでいい。そうではなく、ここで賑い創出したければ、何か仕掛けを考えてなければ。例えば、ここに民間の施設を置く、ショップを置く。人間が集まるには、食べるとか買うとか欲がないと来ない。子育て支援とか図書館とか文化ホールは目的があって来るが、もし誰でも入れて賑いを創出したいのであれば、欲の部分を入れていかないと人は来ない。半官的にショップを設ける、タイムセールのように地元で作った饅頭を売るなどそういう考え方を入れられないのかと思う。単純に官だけでやるとするとかなり難しいが。

委員長：あの場所は商店街にあり、商店街との連携をどう考えていくかということと、テナントをいろんなかたちで導入できないかという議論を2回目の中で話されている。ただ、実際は、補助事業の中で、施設の中で考えることができるのか、あるいは交流広場の中でそういうテナ

ント的なものが入られるのかどうかも含めて、常設にするのか仮設的な市場的なものにしていくのかについても2回目の中で出ているので、計画の中にこういった形で盛り込まれるか是非考えていただきたい。

委員：病院跡地に剣道の武道場の陳情が議会に出ているが、趣旨としては賑いということではないかと思う。そういった動きが他にもありそうなのか？

事務局：商業的な常設のお店を設置しての賑いの創出は正直申し上げて考えていなかった。ただ、イベント的な臨時的な物販は、触れ合いの広場にもつながるので、必要ではないかと捉えている。飲食できるものが必要かどうかは、いろいろ意見を伺いたいと思う。武道館については、この病院跡地への建設ということで市と市議会に要望が出されている。この場所に建てる施設についてはある程度まで検討委員会の皆さんから検討いただいているということで、この中に改めて武道館を建設することについてはすぐに賛同するものではないのではないかと市議会の意向を想定している。ただ、武道館そのものの必要性については、鹿角市内に必要なということではないという意味で継続審査になっているのだと思う。他の機能の病院跡地への建設については、今のところ、文書の形で市へ申し入れになったものはない。この場の皆さんのご意見でいろいろと出していただければと当初はお願いしていたもの。

委員：テナント位はそんな変な話ではないのかと思う。テナントが何軒かあって、ふらっと来るというのであったら、それが何かということコンセプトとして賑いがあって人通りが多く、出逢い、ふれ合いがあるというのを標榜するとしたら、発想として、飲むとか、食べるとか、買うとかというものがあつたとしたら、人が集まってくると思う。今までの公民館や図書館などのイメージから変えなければならぬ気がする。

事務局：当初そういう常設のショップ、喫茶的なものは別だが、コンビニという話も出たが、そういうものは想定していなかった。もともと賑いを醸し出すのであれば商業施設という話もあつたが、公共の使い方をすることで、こういうホール、図書館、市民センター、子育てという公共的な複合施設を考えたので、皆さんの意見ということで伺いたいと思う。

委員：コンセプトにこだわるが、人がいっぱい出る、賑いある所を創りたいという願いが強いとすれば、発想も今みたいな発想に辿り着く。

事務局：賑いはこの施設にとって大切な要素。公共施設でありながらも多くの人から来ていただくということを考えて市民センターも考えた。商業施設はこれ以上に賑うこともあるかもしれないが、あの場所の使い方としては大きな商業施設を置くよりは市民全体が利用出来て、憩える施設にしよう。また、中心市街地ということで、その辺のコンセプトが足りないという面では説明が足りなかったのかもしれないが、もともと中心市街地の1つの施策ということで出たわけで、民間で取得する云々ではなく、厚生連の方から行政に使ってほしいとの打診がありその方向に沿った施設の内容を考えてきた。ただ、今までの組合病院の賑いもあるし、その賑いは大変貴重なので、そういう施設でありながらもどうやって賑いを出すのかということいろいろと意見を伺いながら実現させたいと思っている。

委員：民間を入れるか入れないかはまず置いておいて、こういう文化ホールや図書館とくっついているロビーは静かにしなければならない雰囲気があるが、子どもの騒ぎ声が聞こえても、文化ホールや図書館の人達の邪魔をしないような工夫をしてもらって、皆でワイワイおしゃべりしても平

気なスペースで、また飲食禁止の場所も多いが、子ども達がこぼすというわけではないが、こぼすくらい食べても大丈夫な、掃除しやすいなどの工夫も入れてもらえれば使いやすいと思う。

委員長：運営面も含めての話だが、その辺もうまく盛り込んでいただければよろしいかと思う。

委員：ショップというのは本当にショップでなくても飲食しながらパンを買えとか、軽くやればいいと思う。完全なショップとなるとなかなか難しいと思うが、地元で作っているいろいろな物が手に入るとか、他の所から来た時に連れて行ってカフェみたいにお茶が飲めるとか、他の県から来た人を案内して待合せできるとか、いろいろな使い方ができると思う。あまり立派な部屋にしてしまうと使いづらいので、ストリート的な感じが良いと思う。石狩市民図書館は図書館とホール間にストリートがあって通り抜け出来る。由利本荘市も同じことを考えていて、コンビニがあり、ショップ面積をかなりとって、真ん中に通路があり両側にホールと図書館。そこまでいなくても、テーブルやイスを置いて休んでお茶を飲むというものがあったほうがいいのか？ただの通りすがりでは交流にならないのではないかな。

事務局：ショップ的なお店があると周りのお店との関係もある。

委員：地元から出してもらおうようなものでもいいし、お店というより、例えば主婦の人がお店を開いたりというものも最近はある。秋田県はそういうのが全国一多いが、女性起業家が多い。地元でとれた物を出したり、そういうのがあっていいのではないかな。石狩図書館の場合は、図書館の広場で地元でとれた野菜とか名産の物を売っていて、そういうのは人気があるよう。人が集まる図書館の要素で物も売れる。お互いの相乗効果がある。そういう利用の仕方もある。

委員：文化ホールで大きなイベントがある際に、調理室を利用してお店を開こうと思っている人のチャレンジショップでお弁当を提供してもらおうとか、お茶やお菓子を作っているサークルに出してもらおうとか、コンペを行ったり、建物の中の企画として皆に参画してもらおうことが出来ると思う。企画が楽しいところで、特に商業的にお店を設けるというよりは市民のチャレンジや楽しみの場になったほうが、アイデアも沢山出てくるし、人も集えると思う。

委員長：交流広場については、賑いを創り出す場という共通認識を皆さんお持ちだと思いますので、今日出た幾つかのキーワードを拾っていただき、行政の施設で出来ることと出来ないことがあります。ご承知のようにこの事業は中心市街地の賑いを取り戻すというところから始まっていますので、それも含めて整理していただくことをお願いしたいと思います。

4 その他

(1)「H 施設計画 配置平面について」

委員長：資料の内容を確認いただいて、この件については次回議論させていただきたい。

(2)花輪・十和田合同図書館協議会の図書館に関する意見書について

図書館協議会委員長が、「意見書」の内容について説明

事務局：参考にさせていただき、基本計画にまとまる内容を整理させていただきたい。

5 閉会

16時45分閉会